

展示室1 版画にみる絵画のエッセンス

写真の誕生以前の時代、版画はイメージを広く伝える重要な手段でした。ヨーロッパでは、機械による写真製版が生まれるまで、人の手で版を作る版画はオリジナル版画と複製版画に分かれていました。今回取りあげるのは複製版画で、絵画や彫刻など別の媒体で創作された作品を複製するものです。そして、それを見た人は、版画をたよりに実際の絵を想像したわけです。

ただし、複製といっても、写真のように作品の“正確な”コピーではありません。絵画を版画にするとき、版画家は版画のサイズや色彩で絵画を最大限に表すために、絵画の翻訳をしてきました。また、様々な理由で細部の描写が異なることもあります。本章では、版画家がすくいとった絵画のエッセンスを版画の中を探してみます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ホガース原画、 ジェラルド・ジャン・パティスト・スコタン2世版刻	『当世風結婚』第1場	1745	エッチング、エンブレイヴィング・紙
ウィリアム・ホガース原画、 ベルナルド・パロン版刻	『当世風結婚』第2場	1745	エッチング、エンブレイヴィング・紙
ウィリアム・ホガース原画、 ベルナルド・パロン版刻	『当世風結婚』第3場	1745	エッチング、エンブレイヴィング・紙
ウィリアム・ホガース原画、 シモン・フランソワ・ラヴェネ1世版刻	『当世風結婚』第4場	1745	エッチング、エンブレイヴィング・紙
ウィリアム・ホガース原画、 シモン・フランソワ・ラヴェネ1世版刻	『当世風結婚』第5場	1745	エッチング、エンブレイヴィング・紙
ウィリアム・ホガース原画、 ジェラルド・ジャン・パティスト・スコタン2世版刻	『当世風結婚』第6場	1745	エッチング、エンブレイヴィング・紙
ウィリアム・ホガース原画、 フランソワ・モルロン・ド・ラ・カーヴ版刻	『選挙』第3図 投票日		エッチング、エンブレイヴィング・紙
ウィリアム・ホガース	美の分析II	1753	エッチング、エンブレイヴィング・紙
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60頃	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダール・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	橋と牛（『研鑽の書』より）	1807	エッチング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー（原画、エッチング）、 チャールズ・ターナー（メゾチント）	橋と牛（『研鑽の書』より）		エッチング、メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー原画、 ジェームズ・ティベッツ・ウィルモア版刻	ランプリス湖、北ウェールズ	1834	エッチング、ライン・エンブレイヴィング・紙
ジョン・コンスタブル原画、デイヴィッド・ルーカス版刻	ウェイマス湾（『イングランドの風景』より）	1830	メゾチント
ジョン・コンスタブル原画、デイヴィッド・ルーカス版刻	夏の夕（『イングランドの風景』より）	1830-2	メゾチント／ポートフォリオ
ジョン・コンスタブル原画、デイヴィッド・ルーカス版刻	真昼（『イングランドの風景』より）	1830-2	メゾチント／ポートフォリオ
ジョン・コンスタブル原画、デイヴィッド・ルーカス版刻	ハドリー大聖堂（『イングランドの風景』より）	1830-2	メゾチント／ポートフォリオ
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ原画、 シャルル・ワルトネ版刻	自画像		エッチング・紙
ウォルター・シッカート	カフェの中	1914頃	油彩・キャンバス
ウォルター・シッカート	古風な考えの私の母	1928頃	エッチング・紙
ウォルター・シッカート	ムガール・タヴァーン、ドルーリー・レーン	1908	エッチング、アクアチント・紙
ウォルター・シッカート	麦わら帽子	1907頃	リトグラフ・紙
サー・フランク・ブランギン	ヴェニス・運河	1924	油彩・キャンバス
サー・フランク・ブランギン原画、漆原木虫版刻	橋のある風景 [橋、バーナード城]		木版・紙
サー・フランク・ブランギン原画、漆原木虫版刻	夜景（用水池） [ブリュージュのヤン・ファン・エイク広場]		木版・紙
サー・フランク・ブランギン原画、漆原木虫版刻	船着場 [ブリュージュのプレディクヘーレン橋]		木版・紙
クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	アラスからバポームへの道	1918	リトグラフ・紙
クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	大攻撃の後	1918	リトグラフ・紙

展示室2 近代の日本画

「日本画」という言葉は、近代以後、新しく流入した西洋の技法の絵画と区別し、日本固有の絵画を言い表すためにつくられたものです。それまでの日本の絵画は、画題や絵画様式、技法などにより名称がつけられていましたが、以後はこれらを総称して「日本画」と呼ぶようになりました。

この言葉は、粉末状に砕いた天然の鉱石を膠と混ぜて作る「岩絵具」を使った絵画を指す場合もあります。千年以上前に大陸から伝えられたこの技法を今も継承している日本画は、長い歴史の中で、国内の諸流派が影響しあい、時には西洋画法も取り入れることで、今日まで発展してきたといえるでしょう。

今回は、福島県ゆかりの作家を中心に、個性あふれる日本画コレクションをご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
梶田 半古	蝶	1907-1912(明治40年代)頃	岩絵具・絹/二曲一隻屏風
荻生 天泉	行成卿	1932(昭和7)	岩絵具・紙/二曲一双屏風
須田 珙中	鷹の図		岩絵具・紙/二曲一隻屏風
湯田 玉水	夏山驟雨・晩秋暮鴉		墨、岩絵具・絹/二曲一双屏風
酒井 三良	春池小景	1926(大正15)	岩絵具・絹/二曲一隻屏風
安藤 重春	帰去来	1972(昭和47)	岩絵具・紙
安藤 重春	午后	1973(昭和48)頃	岩絵具・紙 安藤重春氏寄贈
湯田 玉水	夏		紙本墨彩
棟方 志功	愛染菩薩図(「雨ニモ負ケズ」四韻)		淡彩・紙/4点組
常盤 大空	殷賦考	1962(昭和37)	岩絵具・キャンバス
黒沢 吉蔵	霽れる高地	1968(昭和43)	岩絵具・紙
谷 文晁	『松島図巻』	1787(天明7)	木版・紙/卷子

展示室3 イギリスのポップアート

1960年代にアメリカで全盛を迎えたポップアートですが、もともとは1950年代のイギリスで発展を遂げました。当時ロンドンの現代芸術研究所に集った、エデュアルド・パオロツィやリチャード・ハミルトンをはじめとする芸術家や批評家たちが「インディペンデント・グループ」を結成し、ポップアートの先駆けとなります。そしてこの動向は、ハミルトンの企画によって開催された展覧会で注目されます。彼らは、戦後の復興によるアメリカの大量生産・消費、大衆文化の繁栄にともなった社会生活の変化に着目し、それを浮き彫りにしました。

その後アメリカで一大ブームを巻き起こしたポップアートはさらに世界に伝播し、各国でさまざまなスタイルが生み出されていきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
サー・エデュアルド・パオロツィ	『零エネルギー実験電池』Vol.1	1970	リトグラフ、シルクスクリーン・アクリル/ポートフォリオ(6点組)
サー・エデュアルド・パオロツィ	『ムーンストリップス・エンパイア・ニュース』Vol.1	1967	シルクスクリーン・紙(一部アセテート)/ポートフォリオ(100点組)
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピース B、シアン版	1976	リトグラフ・紙
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピース B、クレヨン習作	1976	リトグラフ・紙
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピース B	1976	リトグラフ・紙
パトリック・コールフィールド	『ジュール・ラフォルグの詩(A版)』	1973	シルクスクリーン・紙/ポートフォリオ(6点組)
パトリック・コールフィールド	『ジュール・ラフォルグの詩(A版)』	1973	シルクスクリーン・紙/本
デイヴィッド・ホックニー	『放蕩者のなりゆき』	1961-63	エッチング、アクアチント・紙(16点組)

展示室4-① 明治の版画

明治時代は、日本で最も多種多様な「版」が賑わいをみせた時代でした。木版画では、浮世絵に代表される伝統的な板目木版やフランスから帰国した合田清(1862-1938)によって伝えられた木口木版。銅版画では、司馬江漢(1747-1818)の創製以来続く腐蝕銅版画(エッチング)と1875(明治8)年に御雇外国人として来日したエドアルド・キヨソネ(1833-1898)によってもたらされた直刻銅版画(エングレーヴィング)。

また、明治に新しい印刷技術として登場したのが石版画です。木版画や銅版画とは異なり、石版画は石を彫ることなく、石に描画したものがそのまま版となり、刷ることができました。

ここでは、明治という豊穡の時代を彩ったさまざまな版画作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
松田 緑山	一銭印紙	1872～74(明治5～7)	銅版・紙	明治版画コレクション
松田 緑山	「大日本政府 舊公債証書」金三百圓	1872(明治5)	銅版緑刷・紙	明治版画コレクション
エドアルド・キヨソネ	日本銀行兌換銀券 壹圓	1888(明治21)	銅版・紙	明治版画コレクション
エドアルド・キヨソネ	大日本帝國政府 地券	1875(明治8)	銅版・紙	明治版画コレクション
松田 緑山	地球萬國全圖	1856(安政3)	銅版・紙	明治版画コレクション
岡田 春燈齋	新鑄三都自慢鏡		銅版・紙	明治版画コレクション
松田 龍山	江戸案内圖		銅版・紙	明治版画コレクション
松田 緑山	帝都名所細見		銅版・紙	明治版画コレクション
松田 龍山	大阪案内獨巡		銅版・紙	明治版画コレクション
楊洲 周延	五十三次(『江戸錦』より)	1904(明治37)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
亀井 至一	(美人弹琴図)	1890(明治23)	石版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
矢島 智三郎	廓乃花	1892(明治25)	石版・手彩色・紙	明治版画コレクション
有山 定次郎	美人の風俗	1896(明治29)	石版・紙	明治版画コレクション
矢島 智三郎	浴後之図		石版・手彩色・紙	明治版画コレクション
楊洲 周延	化粧(『江戸錦』より)	1904(明治37)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
山本 昇雲	すずしの顔(『いますぐた』より)	1906(明治39)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
岡村 政子	親愛ノ姉稚児喜ビノ図	1888(明治21)	石版・手彩色・紙	明治版画コレクション
時事新報社	愛犬と少女	1898(明治31)	石版・紙	明治版画コレクション
山内 愚仙	長閑	1909(明治42)	石版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
北沢 楽天	やまとひめとブリタニヤ	1902(明治35)	石版・紙	明治版画コレクション
山本 芳翠	磐梯山噴火真図	1888(明治21)	木口木版・紙	
上田文齋(著)	『内国旅行 日本名所図絵 巻之四 東山道之部』	1889(明治22)	銅版・紙/本	資料
藤島 武二	濃尾震災惨状真図 岐阜市街災後の惨状	1891(明治24)	木口木版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
石田 有年	醤油製造之圖		銅版・紙	明治版画コレクション
小林 清親	COLLYRIUM 東京銀座式町目 楽善堂岸田吟香		木版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
岡村 政子	板垣伯之肖像	1891(明治24)	石版・紙	明治版画コレクション
エドアルド・キヨソネ	岩倉具視公肖像	1889(明治22)	銅版・紙	明治版画コレクション
床次 正精	西郷隆盛肖像	1887(明治20)	石版・紙	
町田 信次郎	教育歴史画第壹巻の参 西郷と月照相約して海中に投ず	1895(明治33)	石版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
小林 清親	東京日比谷親兵式図	1882(明治15)	木版・紙	個人蔵
結城 正明	大日本帝国兩陛下御尊影		銅版・紙	明治版画コレクション
山本 芳翠	貴顕之肖像	1888(明治21)	木口木版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
江島 工山	『開明新選道中袖鏡』 (玉蘭齋貞秀画、江島工山銅鑄、本多清徴編輯)	1875(明治8)	銅版・紙/袖珍本	明治版画コレクション
深瀬 龜次郎	帝國貴顕御肖像	1890(明治23)	石版・手彩色・紙	明治版画コレクション
亀井 竹二郎	「川崎驛 六合川眺望」(『懐古東海道五十三驛真景』より) (徳永柳舟・町田信次郎画作、大山印刷所発行)	1891-92(明治24-25)	石版・紙/ポートフォリオ	明治版画コレクション
潮瀬 茂一	芝高輪汽車夜景		石版・手彩色・紙	丹尾安典コレクション寄贈

展示室4-② ドレスラーの仕事

スコットランドのグラスゴーに生まれたクリストファー・ドレスラーは、植物学を学んだあとデザイナーとなりました。金属器や陶磁器、家具やテキスタイルといった幅広いジャンルのデザインを多くのメーカーに提供しました。

1877(明治9)年末という早い時期に来日、大久保利通などの知己を得て、明治天皇に謁見、正倉院宝物を実見した初めての西洋人となりました。明治政府の依頼で焼物の産地などを訪れ、輸出製品へのアドバイスをこなったほか、ティファニーやリパティの依頼で日本の美術工芸品などを買い付け、その後友人と共同で貿易会社を興し、それを息子たちが引き継ぐなど、一家は長く日本との交流を持ちました。こうしたドレスラーの仕事を、代表的な作品で振り返ります。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレスラー	プロペラ瓶(緑色クルーザ・グラス)		ガラス
クリストファー・ドレスラー	花瓶(赤色クルーザ・グラス)		ガラス
クリストファー・ドレスラー	花瓶(緑色クルーザ・グラス)		ガラス
クリストファー・ドレスラー	瓶(淡緑色クルーザ・グラス)		ガラス
クリストファー・ドレスラー	ローマン瓶(緑色クルーザ・グラス)		ガラス
クリストファー・ドレスラー	瓶(緑色クルーザ・グラス)		ガラス
クリストファー・ドレスラー	瓶(茶色クルーザ・グラス)		ガラス

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	花瓶（緑色クルーザ・グラス）		ガラス
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ、黒檀把手（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（ポイントアーチ型）	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（青海波）	1879-82 頃	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・バスケット	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きケトル		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	把手付き燭台		真鍮、木製把手
クリストファー・ドレッサー	真鍮製燭台（一対）		真鍮
クリストファー・ドレッサー	孔雀象嵌模様円形皿		銀、銅、真鍮
クリストファー・ドレッサー	草花象嵌模様足付皿		銀、銅、真鍮
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩ロータス文大皿		陶器
クリストファー・ドレッサー	青緑釉水差	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	青釉水差	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉水差（一対）	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉アールヌーヴォー風装飾文皿	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	紅地線文把手付花瓶（一対）	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	刻文舟形容器	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉アカンサス型手付壺	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様長皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様長皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様大皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様隅切角皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵草花文隅切角皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	ゴシック模様タイル		磁器
クリストファー・ドレッサー	金銀彩植物模様タイル		磁器
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩花模様水差		磁器
クリストファー・ドレッサー	ケトルとスタンド		銅、真鍮
クリストファー・ドレッサー著	『植物学の基礎』	1859 刊	本
クリストファー・ドレッサー著	『植物学の手引き』	1860 刊	本
クリストファー・ドレッサー著	『アート・オブ・デコラティブ・デザイン』	1862 刊	本
クリストファー・ドレッサー著	『装飾デザインの原理』	1874 刊	本
クリストファー・ドレッサー著	『デザイン研究』	1874-76 刊	本
クリストファー・ドレッサー著	『日本—その建築、美術、工芸』	1882 刊	本
	『ステューディオ』第 15 号	1899 刊	雑誌

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1 階			
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
笠置 季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント
●2 階展示ロビー			
清水 多嘉示	フランスの女	1927 (昭和 2)	ブロンズ
舟越 保武	少女	1956 (昭和 31)	砂岩
細川 宗英	道元	1988 (昭和 63)	ブロンズ
堀内 正和	顔	1955 (昭和 30)	鉄、セメント
三坂 耿一郎	女童（めわらべ）	1974 (昭和 49)	ブロンズ
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ